

2020年 英語改革

なぜ、4技能が求められるのか

グローバル化の進展

- 日本国内で働く外国人

2008年	▶	2017年
約49万人		約128万人

- 海外で暮らす日本人

2004年	▶	2017年
約96万人		約135万人

多様な文化や言語を
もった人たちと一緒に
働く未来はすぐそこに

求められる英語力とは？

- 小中高を一貫した指標で目標設定
- 高校卒業時、
CEFRのA2～B1レベル以上を目指す

<CEFRとは>

欧州評議会が作成した、外国語の学習・教授・評価のための言語共通の参照枠組み。能力は「～ができる」というCAN-DOによりレベル定義されている。

レベルA2例：身近な範囲での日常会話ができる

レベルB1例：旅行時、起こりうる大半の情報に対応できる

英語教育、なにが変わる？

- 1 小学3・4年生で「**外国語活動**」が導入
- 2 小学5・6年生で「**英語(教科)**」が開始、
成績(数値による評定)がつくようになる
- 3 中学・高校の英語授業は「**英語で行うことを基本とする**」
- 4 大学入学共通テストで「**4技能評価、資格・検定試験**」の活用

1 小学3、4年生で「**外国語活動**」

- 年間授業時間：**35時間**（週1コマ程度）
- 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむ
- 言葉としての面白さや豊かさに気づく
- 聞く・話すことの言語活動

2

小学5、6年生で「教科英語」

- 年間授業時間：70時間
- 成績（数値による評定）がつく
- 活字体の大文字、小文字の読み書き
- 語順への気付き
- 聞く、話す+文字指導（読む、書き写す）の導入

3

中学・高校の英語授業

- 中学・高校の英語の授業は「**英語で行うことを基本とする**」
- 高校では、さらに「**論理・表現**」の科目新設

英語の科目全体で「話す」「書く」を中心に発信力を強化し、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを行う

4-1

大学入学共通テスト

- 2技能「聞く・読む」から
4技能「聞く、読む、話す、書く」へ
- 資格・検定試験を活用
- 2024年度以降の英語試験は、
資格・検定試験に一本化の方向性
- 2020～23年度は、大学入試センターが
作問する共通テストと資格・検定試験が併存

4-2

大学入学共通テスト

- 活用できる資格・検定試験（7種）
 - ▶ 「GTEC^{※1}」、ケンブリッジ英語検定、TOEFL、IELTS、TOEIC、TEAP、実用英語技能検定（英検）^{※2}
- 高校3年生の4～12月に受検した2回までの結果を利用

※1 「GTEC」は、株式会社ベネッセコーポレーションの登録商標です。

※2 「従来型」を除く、新設される「公開会場実施」「1日完結型」「4技能CBT」。

※ 英検[®]は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

すでに拡大している個別大学入試における
「資格・検定試験」活用

多くの大学・短期大学の一般・推薦・AO入試で、
「GTEC」のオフィシャルスコアが活用されている

大学入試採用数 **510** 校

※2018年10月現在（海外含む）/3技能受検の結果の採用校を含む

大学入試での活用パターン

- 書類審査
- 試験の代替
- 出願基準
- 加点
- みなし得点化 など